

高等学校第1学年 家庭基礎学習指導案

日 時 平成 28 年 10 月 27 日 (火)

授業者 教育センター所員 中島 教子

1 単元名 家庭基礎「共生社会と福祉」 内容 (1) ーエ

2 単元について

○教材観

平成 21 年に改訂された学習指導要領において、共通教科「家庭」3 科目の中に「共生社会」の項目が新たに追加された。これは、少子高齢化、グローバル化など社会の急激な変化に対応するために、これまでの家族を中心とした生活だけではなく、広く地域や社会に視野を広げ、年齢や障害の有無に関係なく、新たな人々との関係性を築いていく必要性が求められているためと考えられる。様々なニーズを持った個人が安心して生活していくためには、公的な制度やサービスだけではなく、地域で支え合うしくみが必要であり、地域コミュニティの存在は重要性を増していくものと考えられる。しかし、少子高齢化の進行で、地域コミュニティ自体は縮小している状況にある。加えて、地域の課題は、多様化・高度化しているため、各個人が主体的に課題に向き合うとともに、様々な立場の人との協働によって解決を図ることが大切である。

本単元は、生徒自身が家庭や地域、社会の一員として共に支え合って生活していることを理解させ、様々な課題に対してどのような解決方法があるか、自分は何ができるかを考えさせることができる内容である。本単元を通して、高等学校家庭科が重視している、「社会とのかかわりの中で営まれる家庭生活や地域の生活への関心を高め、生涯を見通して生活を創造する主体としての視点」⁽¹⁾や「共生社会」の形成の視点を養うことが期待できる。

○生徒観

本学級の生徒は、異世代への関心が高く、異世代との交流や体験を経験したり、ボランティア活動を経験したりしている。しかし、社会保障制度や地域福祉等の社会的支援に関する具体的な内容への理解はまだ十分とはいえない状況である。このような生徒に対し、人は一生を通して、様々な人たちや社会のしくみに支えられて暮らしていることを理解させ、誰もが住みやすい社会を実現するために、社会や地域の課題に主体的にかかわろうとする態度を育てたい。

○指導観

社会福祉、社会保障のしくみや地域コミュニティの重要性について理解させるとともに、身近な地域の課題について考えさせることで、生徒自身が積極的に社会とかかわっていく態度を身に付けさせたい。そこで、「知識構成型ジグソー法」を取り入れることで、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成につなげていきたい。

また、ICT機器を活用することで、生徒の興味・関心を高めるとともに、情報の取捨選択を行うなどの判断力を必要とする場面において主体性を持たせることができると考える。さらに、情報の共有が容易になると同時に、思考過程やグループ内での活動状況を把握するための手だてとしても活用していきたい。

3 単元目標と評価規準

単元目標			
生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解させ、家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考えさせるとともに、社会の一員として地域や社会の様々な活動に参画していく態度を育む。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
共生社会の重要性を知り、家庭や地域及び社会の一員として主体的に行動しようとしている。	共生社会を実現するために、社会の一員として何ができるか考える。	居住する地域のコミュニティ活動などについて、情報を収集・整理することができる。	共生社会の重要性を知り、ノーマライゼーションの理念、社会保障制度や社会的支援について理解している。

4 単元の指導計画

単元名

「共生社会と福祉」 (全2時間)

- 1 家族・家庭と社会的支援 (1時間)
- 2 共生とコミュニティ (1時間) 本時

5 本時の指導目標

身近な地域の課題について情報を収集・整理し、課題の解決に向けて多面的に考察できるようにする。また、共生社会の実現に向けて、社会の一員として何ができるか考え、地域や社会の様々な活動に参画しようという意識を高める。

6 本時の評価規準

- 身近な地域の課題について情報を収集・整理し、課題の解決に向けて多面的に考察できる。
【技能】 【思考・判断・表現】
- 共生社会の実現に向けて、社会の一員として何ができるか考え、まとめることができる。
【思考・判断・表現】

7 指導の視点

協働的な学びを引き出す「知識構成型ジグソー法」を取り入れることで、生徒一人ひとりの発言を促し、言語活動の充実を図るとともに、地域の課題を主体的に捉え、課題の解決に向けて、意欲的に地域の活動に参画していこうとする態度を培うことができると考える。また、グループ活動において、学び合いや思考の過程が可視化できるようにICT機器を活用することで、適切な評価にもつながると考える。

8 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準	教材等
導入 3分	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習内容を確認する。	・前時の学習内容を確認し、自分の考えを確認させる。 ・知識構成型ジグソー法についての説明を行う。		ワークシート 電子黒板
展開 2分	<p>課題 あなたは、「子育て」「高齢者」「障害者」「男女共同参画」の4つの課題のうち、どの課題にまず一番に力を入れるべきだと思いますか？また、その理由を説明してください。</p> <p>【知識構成型ジグソー法】 3 グループの中での役割を確認する。</p>			
12分	<p>4 エキスパート活動を行う。</p> <p>----- エキスパート資料 A 子育てに関する課題 B 高齢者に関する課題 C 障害者に関する課題 D 男女共同参画に関する課題 -----</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパートの担当、進行役、発表役を確認させる。 ・エキスパート活動の際には、他のグループの同じエキスパート担当者と話をしてよいことを伝える。 ・エキスパート活動で得た情報が課題解決の重要な部品になることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に関する資料を読み取り、整理している。 <p>※ワークシート 【技能】</p>	ワークシート エキスパート資料 電子黒板
18分	5 ジグソー活動を行う。 ・各エキスパートでまとめた内容をそれぞれグループのメンバーに伝える。 ・課題に対する話し合いをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・One Noteを使って、エキスパート活動で得た情報を各自説明させる。 ・それぞれの情報をもとに、課題について話し合いをさせる。 ・グループの活動状況を把握する。 グループの動き 個人の動き グループの集中度 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の課題に対する解決策について、それぞれの情報を組み合わせながら、多面的に考察している。 <p>※学習用PC 【思考・判断・表現】</p>	ワークシート 学習用PC 電子黒板
10分	6 クロストークを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を使って、発表させる。 ・他グループの発表で、参考になるところをワークシートに記入させる。 		電子黒板 学習用PC ワークシート
まとめ 5分	7 課題に対する自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習した内容を踏まえて、個人の意見を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会を実現するために、社会の一員として何ができるか考え、まとめている。 <p>※ワークシート 【思考・判断・表現】</p>	ワークシート
	8 本時の学習内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員として、地域の様々な課題に対して主体的に関わろうとする態度が必要であることを知らせる。 		

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 家庭編』 平成 21 年 12 月 p.8

《参考文献》

- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター
『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校家庭)』 2012 年
- ・ 中間 美砂子編著 『家庭科への参加型アクション志向学習の導入』 2006 年 大修館書店
- ・ 文部科学省 『高等学校家庭科指導資料』 文部科学省 平成 25 年 3 月

《参考URL》

- ・ 佐賀県ホームページ <https://www.pref.saga.lg.jp/web/>
- ・ 佐賀市ホームページ <https://www.city.saga.lg.jp/>
- ・ 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 <http://coref.u-tokyo.ac.jp/>
- ・ 内閣府ホームページ <http://www.cao.go.jp/>
- ・ 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/>